

2019年1月13日

福音書からのメッセージ

すると、「あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」という声が、天から聞こえた。

(ルカによる福音書 3章 22節)

顕現日の後の最初の主日である「顕現後第1主日」は、「主イエス洗礼の日」とあるとおり、イエス様が洗礼を受けられたことを記念して礼拝をする日です。

わたしが洗礼を受けたのは18歳のときでした。そのときにわたしはこう思っていました。「これで罪がなくなる」と。というのも、毎週の礼拝の中で、いかに自分は悪いことばかり考え、また自分中心に生きてきたのかを意識してしまったからです。

洗礼を受けた次の日、わたしは愕然としました。昨日洗礼を受けたばかりなのに、もう嫌な思いが頭の中に渦巻いていることに気づいたからです。洗礼を受けても罪は消えることはありませんでした。

イエス様が洗礼を受けられた、わたしにはこの出来事が不思議でなりません。なぜ神さまの子であるイエス様が、洗礼を受ける必要があったのだろうか。もしかすると聖書には書かれていないけれども、少年時代にとてつもなく悪いことをされたのではなかろうか。

わたしが考えた洗礼の意味とは、「洗礼＝罪の赦し」というものでした。確かにその一面もあると思います。しかしイエス様の洗礼に関しては、そうであるとは言えないように思います。

イエス様は本来、罪の赦しの洗礼は受ける必要はなかったはずですが。しかしあえて受けられた。その大きな意味は、「わたしたちと同じ場所に立つ」ということなのではないでしょうか。

わたしたちが立っている場所は、罪の泥沼とでもいふべきところなのかもしれま



せん。沼地の泥水のように罪がまとわりつき、自力で抜け出そうにもどうしてもできない。イエス様が来られる前、神さまは人間に「それでもわたしのところに来なさい」と命じられていました。しかし

誰一人として罪が全くない姿で神さまの前に立つことなどできないのです。そこで神さまはイエス様を遣わされました。

そしてイエス様は、わたしたちをきれいに洗うのではなく、罪に汚れたままの姿で受け入れてくださるのです。そのために、自らも罪の泥の中にその身を投げ入れられたのです。

そしてそれが、神さまのみ心なのです。天が開け、聖霊が鳩のようにイエス様の上に降って来たという事実。それは神さまのみ手が、イエス様を通してドロドロに汚れたわたしたちに差し出されたことを意味します。

イエス様のご降誕のあと、神さまはご自分の思いを顕現されていかれます。その思いの先には、わたしたち一人一人の姿があるのです。

神さまに感謝します。

桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>